

愛知用水公団による初めの愛知用水青写真：1955（昭和30）年

愛知用水公団設立前、農林省が作成した愛知用水原案と思われる。当時農林省では、水源貯留地（ダム建設場所）を、現牧尾橋付近ではなく、これよりも数百m下流の二子持地点で考えていた。またダムの形式についても、コンクリート重力式ダムを計画していた。当時の日本では、100mに達するロックフィルダムの経験はなく、コンクリートダムを計画していた。昭和30年当時、これをもってアメリカで世界銀行との交渉をおこなったと思われる。

この二子持ちダムの満水位は、現牧尾ダムと同じ880mと設計されている。幹線水路についてみると、「愛知用水原図」において、中流部（現日進市付近）で約20mの落差が想定されているが、この落差を利用した「岩崎発電所」を建設する計画であった。さらに知多半島北部（現知多市七曲）付近において、揚水機場（七曲陽水機場）を設け、幹線水路自体を約8m程度揚水する計画であった。電力需給が十分でなかった時代であり、下流部の幹線水路揚水のための電力を自前で確保するというような考えもあったかもしれない。知多半島内の脊梁部において幹線水路をより高位での流下させることを計画していたことが伺われる。

この愛知用水青写真は全16枚（+1枚）の17枚が作成されたようであるが、保存されているものは、二子持ダム構造図類5枚、幹線水路縦断面図3枚の8枚である。

